

事なかれ主義社会の病理

「酸っぱい葡萄」の話

これはイソップ寓話の中でも有名な話の一つで、要約すると、ヤツネがおいしいそうなブドウを見つけて、高いところにあるどうしても届かない。しまいには、あのブドウはきつと酸っぱくてまずいに違いない』と言って去っていく』というものです。

これは、欲しいものを手に入れることができない自己の能力の低さを正当化するために、対象を貶めたり、価値のないものだと主張する「負け惜しみ」の例え話としてしばしば持ち出されます。

この教訓は、現代社会の人間の行動にもそのまま当てはまりません。人は自分の考えと現実が整合しない場合に「不快感」を覚え、このような感情状態になると、その矛盾を解消しようと努めます。こうした心の動きは、アメリカの心理学者レオン・フェスティンガーが提唱した「認知的不協和」という概念で知られていますが、人間というのは慣れ親しんだ状態や行動パターンを好み、それらを変えることに抵抗感を示す特性をもち、その不協和状態を解消するために、自らの「行動」を正当化する傾向にあります。会社からの無理難題に対し怖くて反論できず、成長と進化のため」と前向きに受け入れてしまうことなどその典型といえます。

「言っても変わらない」の心理

不満のある現状を変えるためには、議論や学習を通して会社に要求をしなければなりません。これは、難しい試験に合格するためにはテキストを読み込んで過去問を研究しなければならぬのと同じレベルの常識です。結局のところ、言っても変わらない」というのは、本質に切り込む知恵と行動力がない自分を正当化するための方便に過ぎません。もちろん、これも生物としての生存戦略の一つであることから、口の上手い人が喋るともっともらしく聞こえることさえあります。しかし、そこには現状を好転させようと闘うために必要なエッセンスが欠けているため、行動力のある人間が相談を持ちかける相手としては不協和です。また、相手が悪ければ、当人の劣等感を刺激し逆恨みを買うといった悪循環をも生むため、本末転倒というものです。生き方は人それぞれと言ったらそれまでですが、誰かに相談するなら自分の考え通りに行動している人を選ぶべきです。○○さんとは喋るな』と言われても聞き流しましょう。会社は子供の遊び場ではありません。

裏での愚痴は、言いたいことが言えない自分自身に対する怒りの発露であり、これも一種の認知的不協和といえます。



「すべて会社が決めて下さい。ただし私たちの思い通りに。」これはもはや独裁主義ですね。



第 153 号

2021年 11月 1日
発責 国労九州本部

博多区博多駅東3丁目9番3号

ニッコーハイツ1003号

JR 092-2075

NTT 092-483-1515